

ケニア、困難を抱える人々に寄り添って

～ 耕和会創立30周年特別講演 ～

耕和会 本部 迫田 純果



ケニアで障がい児のための療育施設を創立された小児科医、公文和子先生をお迎えし、耕和会にて講演会が開催されました。当院の内科医、河上彩恵先生のご学友であり、いくつものご縁に恵まれて実現することができました。

現在もケニアには、必要な医療サービスを受けない人々が多く存在します。福祉や社会保障が発達しておらず、障がい児やその家族への公的支援は皆無ともいわれます。そんな厳しい状況のなか、公文先生が障がい児のための療育事業へ導かれることになられた経緯とこれまでの歩みについて、また「シロアムの園」での臨床診察や諸活動について、日々の課題や細やかな気づきを交えてお話くださいました。長年にわたり公文先生が抱いてこられた志が、皆さまのもとに届けられたのではないかと思います。

同じくケニアの地で、47年前に外科医として巡回医療を行った柴田紘一郎先生（当法人、サンヒルきよたけ施設長）にもお話をうかがいました。かつて湖面一帯を桃色に染めたフラミンゴの群生は、今ではほとんど見られなくなってしまったのだそうです。高度経済成長期にある首都ナイロビのビル群や、マサイ族（遊牧民）が携帯電話を使用している姿など、当時とは様変わりした日常風景も織り交ぜながら、当時の活動を振り返りました。

公文先生が国際社会の一員として、先進国に追い付いていないところを援助するための活動に携わってこられたなかで、障がいを持つ子どもに出会うことも多くなりました。“ないもの”を補うための援助や支援によってではなく、ケニアの保健システムの間隙からこぼれ落ちてしまう、“大切に思っていること、守っていききたいもの”を大切にしていくために活動したいと思うようになったと語られました。両氏のお話を通じて、同じケニアの地で奮闘された同志であればこそ、時を超えた深い繋がりを感じることが出来ました。ケニアは遠くにありますが、幸運なことに私たちは公文先生との出会いを通じて、その視線の先にある人々の日常に、想いを馳せることができました。同時に、もう何十年も住んでいるこの国での日常に、自分自身があまり目を向けてこなかったことにも気づかされました。

ご講話のおわりには、さだまさしさんがご登壇くださるというサプライズがあり、会場は穏やかな熱気に包まれました。楽曲『風に立つライオン』の映画化に伴いケニアを訪問されて以来、同じ志で結ばれた御三方の再会となりました。当日は100名を超えるご参加を賜りました。限られた会場設備ではありましたが、ご清聴いただき誠にありがとうございました。

(7月13日、社会福祉法人耕和会特別養護老人ホーム城ヶ崎小戸の家にて)



公文 和子 先生 (KAZUKO KUMON)

東京都生まれ。北海道大学医学部卒業。英国にて熱帯小児学を学ぶ。シエラレオネ、カンボジアなどでの病院勤務を経て、2002年より現在までケニアで保健医療分野の仕事に携わる。HIV/AIDSに関する人材育成、クリニックでの診療および、スラムにおける公衆衛生プログラム等を実施。2014年「シロアムの園」を創立し、障がいを持つ子どもとその家族のための支援活動を行っている。

シロアムの園 (The Garden of Siloam)

ケニアの教会の一つの事業として発足。障がい児やそのご家族に、療育・包括的ケアを実施している。ひとりひとりの必要に応じた、質の高い教育や医療を提供することを目指している。“シロアム”は、福音書に登場する、イエスが盲人を癒したという池の名前に由来する。〈HP〉<https://www.thegardenofsiloam.org/>